

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【めざす学校像】 ○ 校風・校是「自由と創造」「日新日進」のもと、生徒一人ひとりが自分の色を輝かせ、他者を思いやることにより、全体で虹の架かる学校 ○ 将来の「大阪」とグローバル化に対応する人材と「大阪の教育」をリードする教員が育つ学校 ○ 生徒・保護者・地域住民から信頼される学校 【生徒に育みたい力】 ○ 強靱な知性 ・みずみずしい感性・品格ある人間性 → 確かな学力（自己実現のための学力、知的好奇心、探究心 等） 生きる力（客観的事象分析・問題解決能力、意見表明・プレゼンテーション能力 等） 豊かな心（生命・人権の尊重、規範意識、異文化理解、多文化共生 等） 社会参加力（社会参加、社会貢献 等）

2 中期的目標

1 確かな学力と高い志を育み、進路実現をめざす取組みの推進 （1）生徒のもつ学力を最大限に引き出す ア 確かな学力の充実と進路実現 効果的な補助教材の作成、教員の指導技術の一層の向上に努めるとともに、新学習指導要領、高大接続改革に対応するため、1人1台端末や学習支援クラウドサービスの活用を含めた、「主体的・対話的で深い学び」の推進と大学進学実績向上の両立をめざす。 ＊全項目平均値（R3：3.45 R4：3.42 R5：3.40 ／4点満点）を、令和8年度まで3.2以上、項目8・9（内容に興味・関心が持てた・知識や技能が身についた）の平均点（R3：3.44 R4：3.41 R5：3.39 ／4点満点）を3.2以上で維持する。 ＊生徒向け学校教育自己診断のICT活用に対する満足度（R4：68% R5：73%）を、令和8年度までに75%以上にする イ 講習・補習の充実 放課後、土曜日、長期休業中等の講習内容を充実させ、進路実現に向けた指導を行う ＊難関国立大学（京都大、大阪大、神戸大）への合格者数（現役生＋既卒生／R3：68人、R4：76人、R5：71人）を、令和8年度までに80人以上とし、一層の増加に努める。 ＊国公立大学への現役生の合格者数（R3：163人、R4：166人、R5：172人）を、令和8年度まで130人以上で維持し続ける ウ 英語運用能力の向上 英語での授業を基本としつつ、海外オンライン交流会や外部試験等を活用し、英語コミュニケーション能力の目標を明確に示すことで、生徒の英語運用能力を総合的に高める ＊より実用的な英語運用能力の育成のため、海外オンライン交流会等の実践的コミュニケーションの充実や実用英語技能検定等での上級資格の取得をめざす。 ＊KITEC（ネイティブスピーカーの方々を多数招聘し、少人数に分かれて一日英語漬けで会話能力の向上をめざす企画）を継続し、KITECを通して、英語に対する興味・関心、運用能力が向上したと回答した生徒の割合（R3：95%、R4：95%、R5：97%）を95%以上で維持し続ける （2）生徒の科学的素養を拡大・定着させ、探究心を高める ア 文理学科「課題探究講座」（文系・理系・文理融合）の内容のさらなる充実と全校生徒での共有 ＊2年生の「課題研究」に対する満足度をさらに高めるとともに、課題研究発表会の生徒参加数（R2：720人[発表会はR3に延期]R4：720人、R5：716人）を、令和8年度まで700人以上で維持する イ 創造探究事業（大学や企業・研究機関との連携）の内容の充実 ＊文理学科1・2年生の外部連携事業への延べ参加者数（R3：1,950人、R4：1,945人、R5：1,965人）を、令和8年度まで1,500人以上で維持し続ける ウ 海外の学校等との交流の推進 海外の学校等との共同研究や共同発表会等を実施するなど、交流内容をさらに充実させる ＊交流日数（R3：3日、R4：4日、R5：5日）について、令和8年度まで4日以上行い、さらなる内容の充実を図る （3）進路指導のさらなる充実 ア 自己実現に向けた体験型進路学習（職場訪問、大学研究室訪問）の充実 1年生は、望ましい職業観・勤労観を育成することを目標に、訪問時のインタビューの精度を高めるとともに、プレゼンテーションの質的向上を図る 2年生は、大学における学問・研究に対する理解促進を目標に、生徒同士が学んだ内容について実施するポスターセッションの質的向上を図る ＊1・2年生とも訪問先（1年生 R3：63カ所、R4：63カ所、R5：63カ所 2年生R3：51カ所、R4：52カ所、R5：51カ所）を、令和8年度まで各50カ所以上、生徒満足度（R3：98%、R4：96%、R5：97%）を90%以上で維持し続ける イ 3年間を見据えたキャリア教育の充実 学校として確立した進路指導方針（高津進路プログラム：K S P）に基づき、学年の進路指導ホームルームや進路説明会をより系統的に計画・実施する ＊学校教育自己診断の進路指導への満足度（生徒 R3：93%、R4：91%、R5：95%・保護者 R3：79%、R4：79%、R5：85%）を、令和8年度までともに80%以上で維持する 2 スクールアイデンティティに基づく、豊かな心の育みと規律・規範の確立 （1）人権尊重と社会参加力の育成 ＊学校教育自己診断の人権に関する指導に対する肯定率（生徒 R3：92%、R4：86%、R5：89% 保護者 R3：83%、R4：82%、R5：85%）を、令和8年度まで、生徒90%以上、保護者85%以上に引きあげる ＊部活動参加生徒による「高津キャラバン隊」の実施クラブ率（R3：28%、R4：91%、R5：100%）を、令和8年度まで90%以上で維持し続ける （2）自主的活動と規律・規範意識の向上 ＊部活動加入率（R3：86%、R4：85%、R5：85%）を、令和8年度まで85%以上で維持し、一層の増加に努める ＊生徒向け学校教育自己診断の自治会活動に対する肯定率（R3：79%、R4：70%、R5：70%）を令和8年度まで75%以上を維持する ＊年間の遅刻者総数（R3：2,264件、R4：2,663件、※R5：1,853件）を令和8年度までに2,000件以下とする（※起立性障がい等の生徒遅刻を除く） （3）安心で安全な学校環境 ＊生徒向け学校教育自己診断の保健室利用、教育相談に対する満足度（「わからない」を除く／R3：90%、R4：90%、R5：91%）を令和8年度まで85%以上で維持する。 3 教職員の資質向上と学校運営体制の確立 （1）学校の組織的運営、校務の効率化及び情報共有 ＊教職員向け学校教育自己診断の各分掌や学年・教科等の円滑な連携等に対する肯定的意見（R3：62%、R4：62%、R5：63%）を、令和8年度までに85%以上とする
--

（２） 開かれた学校づくりの推進 ＊生徒による社会体験・貢献活動（ボランティア講座、支援学校との交流、部活動参加生徒によるキャラバン隊 等）をさらに活性化させる ＊本校が行っている教育活動について、学校説明会や学校H P等を通じて、中学生やその保護者に積極的にアピールする ＊中学校や大学との連携を積極的に行い、開かれた学校づくりを推進する （３）教員の資質向上とミドルリーダーの育成 ＊教職員向け学校教育自己診断の校内研修に関する肯定率（R 3：76％、R 4：75％、R 5：82％）を令和 8 年度までに 80％以上とする ＊教職員向け学校教育自己診断のミドルリーダー育成に関する肯定率（R 3：62％、R 4：80％、R 5：78％）を令和 8 年度までに 75％以上とする （４）「働き方改革」の流れを踏まえた、（校内）安全衛生委員会機能のさらなる向上 ＊教職員向け学校教育自己診断の教育活動に関する悩みや疑問の気軽な相談についての肯定率（R 3：66％、R 4：81％、R 5：73％）を、令和 8 年度までに 75％以上とする

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 6 年 12 月実施分〕	学校運営協議会からの意見
【学習指導等】 ■生徒 ・「授業は知的好奇心を抱きやすいなど、内容が濃い」88％（R 5 87％） ・「授業はわかりやすく楽しい」89％（R 5 88％） ・「授業には、ICT 機器が積極的に取り入れられ、1 人 1 台端末が効果的に活用されている」85％（R 5 73％） ・「学習に対する評価は適切で納得できる」89％（R 5 90％） ■保護者 ・「学習に対する評価は適切で納得できる」91％（R 5 88％） ■教職員 ・「授業では主体的・対話的で深い学び等さらなる向上をめざしている」95％（R 5 94％） ※LGH の指定校として、ICT を積極的に活用するとともに、生徒のニーズに応じた適切な教科指導を実践している。また、今後も、難関大学進学に対応できる学力向上をめざし、授業改善に努める。 【進路指導等】 ■生徒 ・「将来の生き方や進路を考える機会が数多く提供されている」92％（R 5 92％） ・「カリキュラムは生徒の進路希望・適性に応じたものになっている」85％（R 5 84％） ・「土曜日や長期休業中の講習は学力向上や進路実現に役立っている」84％（R 5 75％） ・「教職員は生徒の進路実現に積極的に取り組んでいる」93％（R 5 95％） ■保護者 ・「将来の生き方や進路を考える機会が数多く提供されている」92％（R 5 90％） ・「土曜日や長期休業中の講習は学力向上や進路実現に役立っている」86％（R 5 82％） ■教職員 ・「将来の生き方や進路を考える機会を数多く提供している」94％（R 5 96％） ・「カリキュラムは生徒の進路希望・適性に応じたものになっている」95％（R 5 91％） ○生徒の希望進路実現に向けて、正確でタイムリーな情報提供と、さらなる戦略的、効果的な進路指導、学習支援に努める。 【生徒指導等】 ■生徒 ・「生徒指導の方針に共感できる」87％（R 5 84％） ・「人権を大切にする心や社会ルールを守る態度を育てようとしている」90％（R 5 89％） ・「教職員は人権を尊重しており、体罰やセクハラはない」92％（R 5 91％） ■保護者 ・「生徒指導方針に共感できる」91％（R 5 86％） ・「人権を大切にする心や社会ルールを守る態度を育てようとしている」87％（R 5 85％） ■教職員 ・「教職員は人権を尊重しており、体罰やセクハラはない」95％（R 5 97％） ・「生徒や保護者が必要に応じて、気軽に相談できる環境が整っている」98％（R 5 96％） ※「わからない」を除く ○校則がないことを強みとし、自分から主体的に考え、行動するとともに、他者への思いやりの心が育つよう、高津らしい生徒指導を進めていく。 【学校運営等】 ■生徒 ・「SSH、GLHS として設定されている活動は充実している」89％（R 5 91％） ・「クラブ活動は活発で、活動時間や活動内容は適切である」80％（R 5 77％） ・「教職員は様々な悩みや疑問等に気軽に相談にのってくれる」92％（R 5 82％） ・「教職員は教育活動に熱心に取り組んでいる」94％（R 5 95％） ・「教職員はいろいろな問題を見逃さずに対応してくれる」89％（R 5 82％） ※「わからない」を除く ・「自分は学校行事や自治会・HR 活動に積極的に参加・参画している」82％（R 5 76％） ■保護者 ・「SSH、GLHS として設定されている活動は充実している」91％（R 5 92％） ・「教職員はいろいろな問題を見逃さずに対応してくれる」93％（R 5 89％） ※「わからない」を除く ■教職員	第 1 回学校運営協議会 令和 6 年 6 月 17 日(月) 【報告・説明】 ○令和 6 年度「学校経営計画」について →進学状況の報告に加え、各分掌が連携・協力をして学校運営を進めている。 ○スクールポリシーについて →令和 5 年度に決定している。スクールミッションは 10 年を見越してのもの。グラデュエーションポリシー等については 5 年程度で見直しである。 ○SSH 第Ⅳ期について →大工大との連携、生徒研究発表会等、課題研究を主とした調査・研究、外部との連携等を引き続き進めていく ○大阪教育ゆめ基金の活用について →デジタルサイネージを本年設置したい。タイムリーに情報共有できる。 ○各種事業について 【意見】 ・先生方は連携が出来ており、生徒と一緒に頑張ってくれている。子どもたちの学校生活の満足度が非常に高い。 ・働き方改革について進めてもらいたい。一般企業であれば人的資源の配分と機械化が重要。社員も設備だという考えがあるが、公立教育ではどうすればよいか。 ・先生ではなくてもできるところは PTA 等をお願いすればよいのでは。先生しかできないことに専念していただきたい。 ・GLHS、SSH の活動が多岐にわたって大変だが頑張ってもらいたい。 ・先生方が講習等頑張ってくださっている。塾に行かずとも学校主体で希望の大学に合格できると強く言ったらどうだろうか。 第 2 回学校運営協議会 令和 6 年 11 月 18 日(月) 【報告・説明】 ○令和 6 年度「学校運営計画」の進捗状況等について ・講習補習の充実について →自習室の利用平均人数は昨年を上回っている。考査前は満席に近い状態。 ・英語運用能力の向上について →GLHS 合同海外研修には本校から 3 名、10 校で 30 名が参加。 ・海外の学校等との交流の推進 →台湾サイエンスツアーは費用高騰のため参加希望者は減っている。 ・学校の組織的運営、校務の効率化及び情報共有について →首席を中心に学年委員会を設置し、教職員の情報共有を高めている。 ・開かれた学校づくりの推進について →教育活動や行事などを学年主任が保護者メールで発信し好評を得ている。 ・言語・ICT 活用力の向上について →ICT 活用力向上のため、コンテスト等への参加者数を増やす。 ・総合的な学力の測定について →国公立大学志向が高い。(大学入学共通テストに 351 名中 331 名出願) ・取り組みの成果を他校・地域へ発信・普及することについて →公開授業を積極的に行い、HP にも探究活動資料を公開している。 【ご意見】 ・授業見学した教室では ICT やプリントを効果的に使用している教員が多かった。 ・大学でもシラバスに沿った講義を考えると標準化され、同じようになる。また、素晴らしい講義を録画し、オンラインで講義を行えばよいということになると、個性がなくなる心配が出てくる。 ・先生と生徒・家庭との距離感も近く、学校のことがよくわかってありがたいが、そのために先生方が働き過ぎているようなことになっていないか。 ・“カリキュラム”とは“自分がたどってきた道”。色々な経験をすること

府立高津高等学校

・「教育活動は、学校経営計画等に基づき、適切に行われている」98％（Ｒ５ 93％） ・「変化や状況に応じ行事の見直し等に迅速かつ柔軟に取り組んでいる」73％（Ｒ５ 78％） ・「各分掌や学年・教科が連携し組織的に機能の向上に取り組んでいる」75％（Ｒ５ 63％） ・「GLHS、SSH の取組みに教職員が意識を共有して取り組み充実」82％（Ｒ５ 81％） ・「学校運営に積極的に参加・参画している」82％（Ｒ５ 76％） ・「部活動は活発で、活動時間や活動内容は適切である」77％（Ｒ５ 72％） ・「保護者と緊密に連携し、信頼感が醸成されている」100％（Ｒ５ 96％） ・「本校の教育活動を積極的にアピールできている」98％（Ｒ５ 94％） ○教職員の SSH、GLHS の取組みへの情報共有をより進めながら、各分掌や学年・教科等の円滑な連携等を進める。 【その他】 ■生徒 ・「高津高校に入学してよかった」92％（Ｒ５ 90％） ・「教室・廊下・トイレ等の環境は、学習の場にふさわしい」66％（Ｒ５ 65％） ■保護者 ・「高津高校に入学させてよかった」93％（Ｒ５ 93％） ・「教室・廊下・トイレ等の環境は、学習の場にふさわしい」72％（Ｒ５ 70％） ■教職員 ・「経験の少ない教員や次世代リーダーを計画的に育成している」77％（Ｒ５ 78％） ・「教職員の教育活動に関する学習機会が適切に提供されている」75％（Ｒ５ 82％） ・「いじめが起こった際の体制が整っており、迅速に対応できる」91％（Ｒ５ 88％） ・「教室・廊下・トイレ等の環境は、学習の場にふさわしい」52％（Ｒ５ 58％） ○今年度も、生徒・保護者ともに「高津高校に入学して（させて）よかった」という回答が高水準で安定している。一方で、トイレ等の施設設備、環境面は、改善の必要はあるが、予算面から困難な状況である。	が大切で、学力と経験は違う。それが転職にもつながる。転職は日本ではまだ浸透していないが世界ではプラスに評価される。高津では自分が何をしてきたかというカリキュラムを生徒がつかれるようにサポートして欲しい。 第3回学校運営協議会 令和7年3月24日(月) 【報告・説明】 ○大学合格状況について（進路部長より） ・共通テストについては8割以上の得点率が昨年の48名（16.3％）から97名（31.9％）に増加した。私学は昨年並み。 ・GL10校中4位と健闘した。 ・大阪公立大学の出願が増加（250名）し、68名合格（昨年51名）。 ・今年度卒業生（77期生）は、1年時のスタサボの成績が良く、安定志向であった。 ○令和6年度学校教育自己診断結果について（校長より） ・一人1台端末等の活用、講習の充実、自治会活動の肯定率が向上。 ○「令和6年度学校経営計画（最終評価）」・「令和7年度学校経営計画」について ・どちらも承認された。 【ご意見等】 ・学校教育自己診断結果を見ると、進学指導をはじめ、すべての項目において、高いレベルで推移している。 ・スクールデザインの検討に際し、現在の強みに加えて、地元高津の良さを魅力としてもよいのではないか。
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R5年度値]	自己評価
1 確かな学力と高い志を育み、進路実現をめざす取組みの推進	(1)生徒のもつ学力を最大限に引き出す ア・教員の指導技術の向上	(1) ア・新学習指導要領、高大接続改革に対応するため、1人1台端末や学習支援クラウドサービスの活用を含めた、「主体的・対話的で深い学び」の推進と大学進学実績向上の両立をめざす。	(1) ア・教職員向け学校教育自己診断の「さらなる指導技術の向上」に関する項目の肯定率[94％]を 90％以上で維持する。	(1) ア．教職員向け学校教育自己診断の「さらなる指導技術の向上」に関する項目の肯定率95％（○） LGHモデル校として各教員が積極的にICTを活用している。10月25日に、1人1台端末を用いた公開授業を実施した。
	イ・講習・補習の充実	イ・土曜講習、放課後・長期休暇の講習の充実。自習室の活用。	イ・1年生の土曜講習全員参加、2・3年生の参加率の維持。自習室の維持。 ・難関国立大学（京都大、大阪大、神戸大）への合格者数（現役生＋既卒生）[R5:71人]を80人以上とする。 ・国公立大学への現役生の合格者数[R5:172人]を、130人以上とする。	イ．土曜講習（オンライン講習含む） 1年17日、2年18日、3年21日 自習室88日開放、1日あたりの平均人数63人（1月21日現在）（○） ・難関国立大学（京都大、大阪大、神戸大）への合格者数72人[R5:71人]（○） ・国公立大学への現役生の合格者数196人[R5:172人]（◎）
	ウ・英語運用能力（4技能）の向上	ウ・1・2年生全員を対象に、実用英語技能検定を活用して英語運用能力の向上を図る。 ・KITECを実施し英語会話能力の向上をめざす。 ・国際交流センター留学生との語学交流事業GULSを継続する。	ウ・KITECを通して、英語運用能力が向上したと回答した生徒の割合[95.5％]を95％以上で維持する。 ・語学交流事業GULSの生徒満足度[93％]を90％以上で維持する。	ウ．KITEC生徒満足度 基礎講93.5％（△） 発展講座97.9％（○） ※GULSの生徒満足度100％。（◎）
	(2)生徒の科学的素養を拡大・定着させ、探求心を高める ア．課題研究の充実	(2) ア・課題研究の充実をはかり、1・2年生の全員を対象とする。生徒の満足度の向上をはかる。	(2) ア・参加生徒数700人以上を維持。生徒満足度の向上	(2) ア．1月31日に生徒研究発表会を実施予定。2年生が、文系・理系・文理融合全109班に分かれて発表した。生徒満足度98.7％。（○）
	イ．創造探究事業の継続	イ・本校独自の事業の他、他の団体等の事業への生徒の参加を促し、幅広い能力の向上を図る	イ・創造探究事業への延べ参加人数[1,965人]1,500人以上	イ．2004人（○）

府立高津高等学校

	ウ．海外の学校等との交流の推進 (3)進路指導のさらなる充実 ア．体験型進路学習の一層の充実 イ．キャリア教育の充実	ウ・海外の学校等との共同研究や交流を積極的に推進 (3) ア・交流対象校と交流内容とともに、より継続的かつ双方向的な交流へと充実を図る。 イ・生徒・保護者に対して3年間を見通した進路指導計画を提示し、理解を得る	ウ・海外の学校等との交流[5日]を4日以上、参加生徒の満足度[91%]を90%以上。 (3) ア・体験型進路学習に対する生徒の満足度[97%]を90%以上で維持する。 イ・学校教育自己診断の進路指導への満足度[生徒95%・保護者85%]を、80%以上で維持する。	ウ．SDG sをテーマに韓国・台湾・フィリピンの高校生とオンライン交流会を3日実施。9月末に海外から生徒を招聘し高校生アジア環境フォーラムを2日間開催した。・生徒の満足度96% (○) (3) ア．1年職場訪問 63か所 (7月実施) 生徒満足度 98% (○) 2年研究室訪問 50 研究室 (11月実施) 生徒満足度 96% (○) イ．学校教育自己診断の進路指導への満足度 生徒93%・保護者88% (○)
2 スクールアイデンティティに基づき、豊かな心の育みと規律・規範の確立	(1) 人権尊重と社会参加力の育成 (2) 自主的活動と規律・規範意識の向上 (3) 安心して安全な学校環境	(1)人権を尊重し、社会への参加の意識を醸成する (2)部活動・自治会活動など生徒の自主的な活動を支援。生徒の規律を重んじ規範を守る心を育てる。記念祭での三部会（教員・自治会・生徒）での運営の維持 (3)保健室・相談室などの生徒に対する心身の健康を維持する環境の充実	(1) 学校教育自己診断の人権に関する指導の肯定率[生徒 89%・保護者85%]をともに85%以上とする。高津キャラバン隊の参加率100%をめざす。 (2)部活動加入率[85%]を85%、自治活動に関する肯定率[70%]を80%、記念祭の満足度[体育祭99.1%文化祭96.6%]を95%以上で維持する。遅刻者数[2076件]を2,000件以下で維持する。 (起立性障がい等の生徒遅刻を除く) (3)生徒向け学校教育自己診断の保健室利用、教育相談に対する満足度[91%]、保護者の学校への相談に対する満足度[87%]をともに維持する。	(1) 学校教育自己診断の人権に関する指導に対する肯定率 生徒90% 保護者87% (○) 高津キャラバン隊の参加率は100% (○) (2) 部活動加入率83.1%(12/1現在)(△) 自治活動に関する肯定率85% (◎) 記念祭の満足度 (○) ・体育祭98.3% ・文化祭95.8% 遅刻者数1897件 (○) (3) 保健室利用、教育相談に対する満足度 生徒93% 保護者89% (○)
3 教職員の資質の向上と学校運営体制の確立	(1) 学校の組織的運営、校務の効率化及び情報共有 (2) 開かれた学校づくりの推進 (3) 教員の資質向上とミドルリーダーの育成 (4)「働き方改革」の流れを踏まえた、安全衛生委員会の機能向上	(1)意思決定経路を明確にし、教職員の学校運営への参加の意識を促進する。 (2) 本校が行っている教育活動について、学校説明会や学校HP等を通じて、中学生やその保護者に積極的にアピールする。また、中学校や大学など他校種との連携を行う。 (3)教員間の授業交流の促進、研究授業・協議を一層活性化させ、さらなる授業力向上に努める。 生徒による授業評価（年2回）や授業公開等を実施し、その結果を教員・教科にフィードバックし、授業改善に生かす。 (4)「働き方改革」の流れを念頭に、快適な職場環境の形成とともに教職員の意識を醸成する。 学校部活動方針（休養日等）の遵守及び全校一斉定時退庁日の遵守を推進する。	(1) 各分掌や学年・教科等の円滑な連携等に対する肯定的意見[63%]を70%に向上する。 学校運営に参画しているに対する肯定率[76%]を80%以上にする。 (2)「教育活動を中学生や保護者に積極的にアピール」に対する肯定率[94%]を85%以上で維持する。 (3)研究授業の実施。生徒授業アンケートの振り返りシートを作成し、PDCAサイクルを確立する。 生徒向け授業アンケートの全項目平均値[3.40]を3.2以上。 校内研修に関する肯定率[82%]を80%以上で維持、ミドルリーダー育成に関する肯定率[78%]を70%以上で維持する。 (4)「教育活動に関する悩みや疑問の気軽な相談」に対する肯定率[73%]を75%以上にする。 教職員一人あたりの超過勤務時間数で前年度より5%削減をめざす [R5：40時間54分]	(1) 各分掌や学年・教科等の円滑な連携等に対する肯定的意見75% (◎) 学校運営に参画しているに対する肯定的意見82% (○) (2)「教育活動を中学生や保護者に積極的にアピール」に対する肯定率98%(○) (3) 第1回、第2回生徒授業アンケート1～9全質問の平均値3.42 (○) 校内研修に関する肯定率75% (△) ミドルリーダー育成に関する肯定率77% (○) (4)教育活動に関する悩みや疑問の気軽な相談」に対する肯定率84% (◎) 教職員一人あたりの超過勤務時間約38時間33分（2月末現在） 〔前年度比5.8%減〕(○)